

- 1 審議会名 令和5年度 第7回黒沢洞合自然公園整備検討委員会
- 2 日 時 令和6年2月16日(金) 午前10時00分から
- 3 会 場 会議会場：市役所本庁舎 3階 共用会議室 306
- 4 出席者 浅川委員、猿田委員、窪田委員、那須野委員、佐藤委員、城取委員、中田委員、東本委員、榛葉委員、百瀬委員、(株)KRC藤村さん、
- 5 市側出席者 山越子ども家庭支援課長、赤羽課長補佐、林、岩渕

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 基本設計最終案の確認について
 - (2) 今後のスケジュールについて
- 4 その他
- 5 閉 会

II 協議概要

1 開 会

2 あいさつ

委員長より、開会の挨拶をいただいた。

3 協議事項

(1) 基本設計最終案の確認について (資料1A・1B・2)
(株)KRC 藤村さんより資料を用いて説明。以下検討項目毎に記載。

(前回委員会の振り返り)

質問事項なし。

(ボーリング調査等の結果について)

(B 委員)

前回委員会後にボーリング調査を含め各種調査を行ったようだが、結果はどうであったか。

(藤村さん)

ボーリング調査はトイレ建設予定地にて行ったが、建設しても十分問題ないという結果を得た。また、拡張地内2か所について透水試験を行った。どちらも $3.6 \sim 3.9 \times 10^{-4}$ (m%) という値で、評価としては中程度で公園づくりには十分である。最後に表土の状況については、粘度が低いと造成時に問題が生じるのではと懸念をしていたが、十分造成に使えるとの結果を得る事が出来た。

(1/30 説明会時の質疑応答内容について)

質問事項なし。

(雨水及び通水について)

(B 委員)

駐車場の南に水路を設けることになるが、駐車場からの雨水がその水路に流れ込む場合には駐車場の土も一緒に水路に流れ込み、塞いでしまうようなことにならないか。

(藤村さん)

造成により水勾配を調整しながら、駐車場内に浸透枳を設置し、駐車場内の雨水は駐車場で処理するよう対応する。造成の角度等は今後実施設計で決定する。

(

(D 委員)

造成により土地の段差の場所を移動することになると思うが、現在畔には在来植物が多くいる。在来種の保全の方策を計画に盛り込んでほしい。河川付近の樹木が高木化していると住み着く昆虫も偏りが生じる。現地をみなから明るい環境を目指すなどしたほうがよいのでは。

(藤村さん)

公園内を周遊できるようにするためには現在の畔の部分を変更しなければいけない場所は生じる。その場合には畔に植生する在来種を表土ブロックでA-3エリアに移植する。春に植物が繁茂したところで移植する植物と委嘱先についてまとめておきたい。

日陰に関しては、現地を確認し倒木・枯損木が多いのは理解しているので、それらの間伐なども計画に盛り込んでいきたい。

(植栽整備計画について)

(B 委員)

ナツツバキを夏のシンボルツリーに選定している理由は何かあるか。

(藤村さん)

南農生からは最初はサルスベリとの意見もあったが、付近で自生している樹種ということで選定した。

(D 委員)

拡張地は草地部分が多いので、将来にわたっての管理方法を考えながら木を植えていくべき。高木を植えてしまうと当初は開けていたが次第に森林化していく公園はよくある。動物を呼び寄せる植物を視点とした選定も必要。

(藤村さん)

現在の計画にはない視点なので、追加していきたい。既存公園も植えてから成長して密度が濃い部分になっている。開園 17 年たっているのでこれから 17 年後の拡張地のイメージとして持っていてほしい。

(D 委員)

自然観察会を行う立場からすると、タラノ木やコシアブラなどが食用の植物なものが多く、味を比較しながら楽しむことができる。このような視点で楽しむができる。その観点も計画に必要。

(藤村さん)

子供たちが楽しめる仕掛け、観察学習に効果的な部分という視点が現在の計画にはないので反映していきたい。

(C 委員)

既存公園作成時には三郷中 2 年生が外部講師を招きながら植物、昆虫、鳥などの関係性を学んでいった。今回の拡張整備でも学習効果向上を目的に利用できるように整備していきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

今年度の検討委員会は今回で終了し、来年度の開催については追って連絡する。

4 その他

5 閉 会